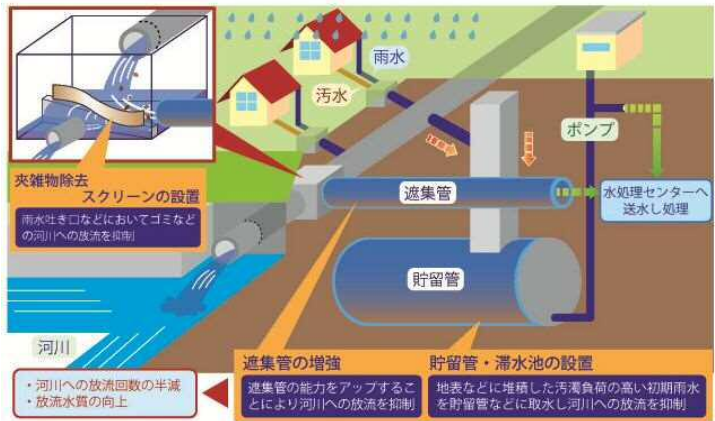


取組概要	進行管理の指標	平成29(2017)年度の取組結果		
<p>合流式下水道は、雨天時にし尿を含む未処理下水が放流され、水質汚染が社会問題化したことから、未処理下水の汚濁負荷や放流回数削減を図るため、雨水貯留管・雨水滞水池[*]などを建設して、汚濁負荷の高い初期雨水対策を進めてきた。雨水吐き口やポンプ場から放流される夾雑物を削減するため、合流改善スクリーンなどの設置、ポンプ場スクリーンの目幅縮小を進めており、引き続き取組を実施する。</p>	<p>平成29(2017)年度末合流式下水道改善率73.5% (目標)</p>	<p>○平成29(2017)年度末合流式下水道改善率73.5% ○丸子地区において合流改善スクリーン(水面制御装置)を設置 ○大師河原貯留管建設事業の推進 ○六郷遮集幹線建設事業の推進</p>		
<p>[*]雨水貯留管・雨水滞水池 汚濁負荷の高い初期雨水を一時的に貯留する施設(本市では多くの施設で浸水対策の役割を併せ持つ)</p>	<p>評価</p>		<p>下水</p>	<p>3</p>

今後の予定
<p>【平成30(2018)年度】 ○大師河原貯留管建設事業の推進の継続 ○六郷遮集幹線建設事業の推進の継続 【平成31(2019)年度以降】 ○六郷遮集幹線建設事業の推進の継続 ○大師河原ポンプ場改築事業の推進</p>



合流式下水道改善のイメージ

IV 環境に配慮した行動の促進

IV-1 事業活動における適正な環境管理

IV-1-(1) 市役所の率先した環境配慮の取組

水道 工水 下水

取組概要	進行管理の指標	平成29(2017)年度の取組結果		
「川崎市地球温暖化対策推進計画」の柱の一つである「市役所の率先取組の推進」に基づき、事業活動に伴う温室効果ガス排出量を削減する取組を行う。	平成29(2017)年度の目標値 低燃費車導入率85.5% (207台中177台うちハイブリッド車11台)	低燃費車導入率85.0% (207台中176台うちハイブリッド車11台)		
		評価	水道 工水 下水	3

今後の取組

公用車は代替時期に合わせて、順次低燃費車を導入

[低燃費車の導入率]

	車両総数	車両総数のうち低燃費車数	低燃費車の導入率	
			目標値	実績値
平成29(2017)年度	207台	176台	85.5%	85.0%
平成30(2018)年度	207台(予定)	179台(予定)	86.5%	-
平成31(2019)年度	207台(予定)	185台(予定)	89.4%	-
平成32(2020)年度	207台(予定)	194台(予定)	93.7%	-
平成33(2021)年度	207台(予定)	195台(予定)	94.2%	-

IV-1-(2) 省エネ法に基づくエネルギー管理の取組

水道 工水 下水

取組概要	進行管理の指標	平成29(2017)年度の取組結果		
省エネ法により、事業者単位でのエネルギー管理が義務付けられており、局全体が「特定事業者」として指定を受けている。エネルギー管理統括者等の選任、中長期計画書・定期報告書の作成・提出を行う中で、エネルギー使用量の把握及び適正管理を行い、中長期における年平均1%以上のエネルギー消費原単位の低減を目指す。	○上下水道局全体で中長期における年平均約1%以上のエネルギー消費原単位 [※] の低減 ○平成28(2016)年度エネルギー消費原単位 ・浄水場等(水道)：0.01654kl/千m ³ ・浄水場等(工水)：0.02907kl/千m ³ ・水処理センター等：0.1214kl/千m ³ [※] エネルギー消費原単位 エネルギー使用量をエネルギー消費と関連のある量で除した値で、エネルギー消費効率を比較するための単位(省エネ法の努力義務=年平均1%以上のエネルギー消費原単位の低減)	平成29(2017)年度エネルギー消費原単位：前年度比 1.0%低減 ・浄水場等(水道)：0.01591kl/千m ³ (3.8%減) ・浄水場等(工水)：0.02910kl/千m ³ (0.5%増) ・水処理センター等：0.1201kl/千m ³ (1.1%減)		
		評価	水道 工水 下水	3

今後の取組

中長期における年平均約1%以上のエネルギー消費原単位の低減を目指し、省エネルギー対策への取組を引き続き推進

(単位：kl/千m³)

エネルギー消費原単位の推移

